

定期作況報告

平成21年8月
(8月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年より極めて低く、最低気温はやや低く、平均気温は低かった。降水量は平年より多かった(平年比168%)。日照時間は平年より少なかった(平年比51%)。

8月上旬：最高気温、平均気温は平年並み、最低気温はやや低かった。降水量は平年より少なかった(平年比24%)。日照時間は平年より多かった(平年比158%)。

8月中旬：最高気温は平年より低く、最低気温はやや高く、平均気温はやや低かった。降水量は平年よりやや少なかった(平年比71%)。日照時間は平年より少なかった(平年比49%)。

以上のことから、この1か月間(7月下旬～8月中旬)は平年と比較して、気温は平年よりやや低く、降水量は平年並み、日照時間は平年並みであった。

注) 降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

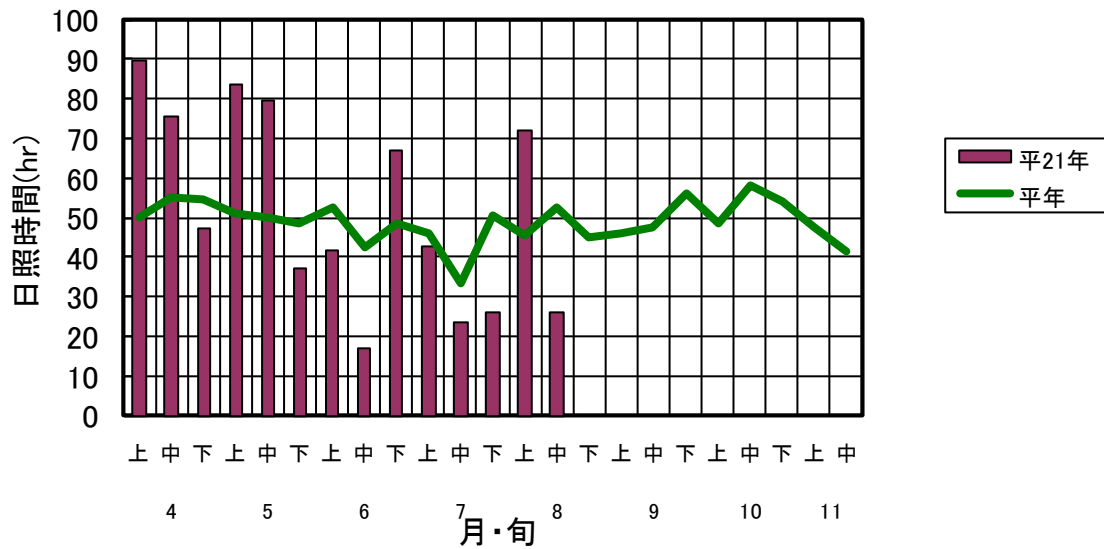
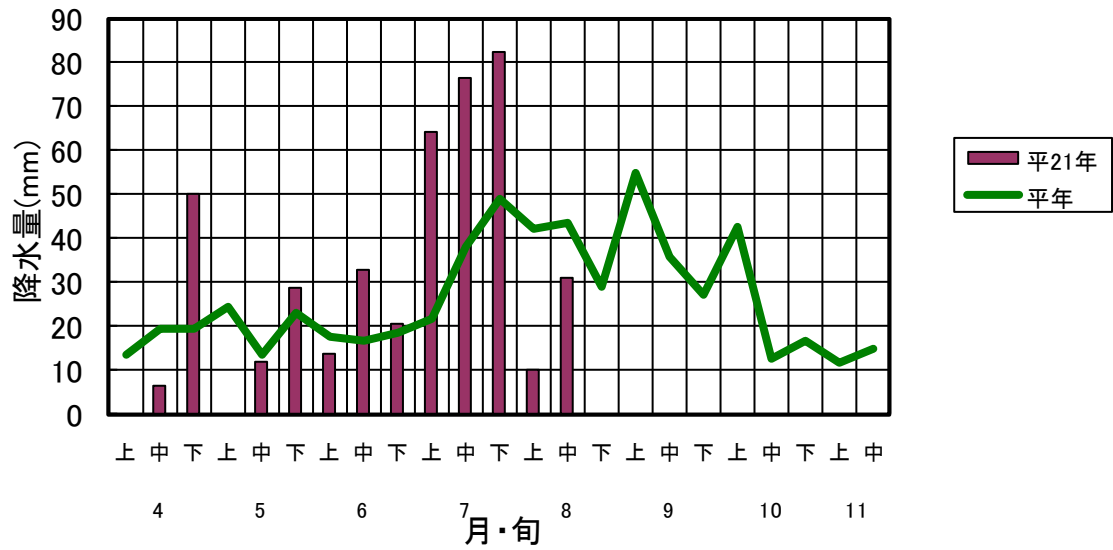
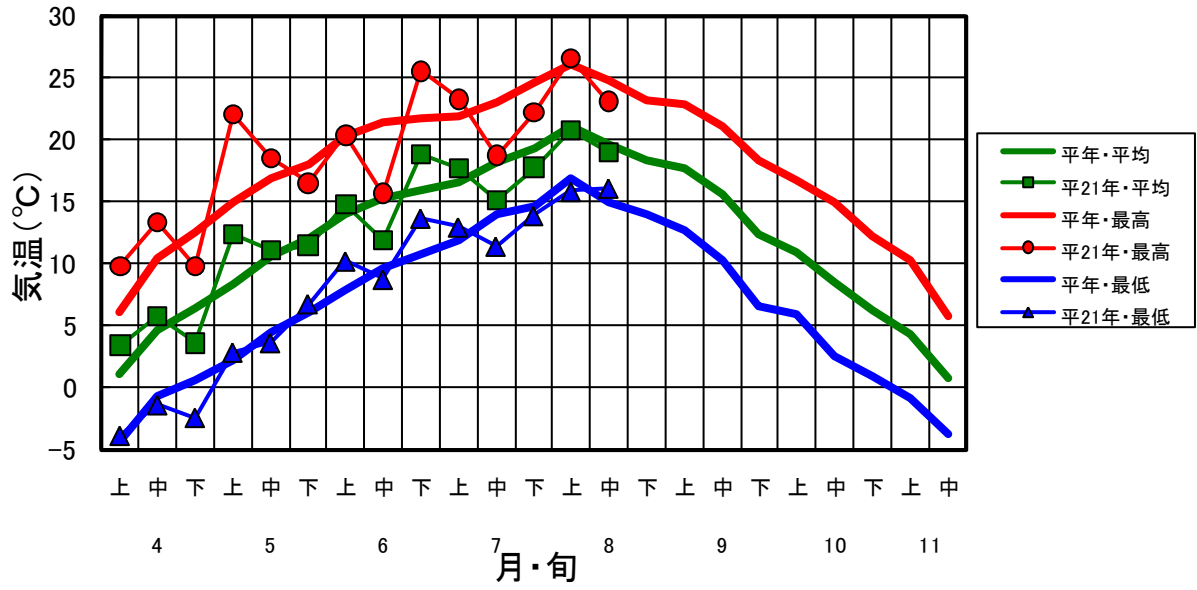
気象表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	17.8	19.4	△ 1.6	22.2	24.7	△ 2.5	14.0	14.7	△ 0.7
8月上旬	20.8	21.1	△ 0.3	26.6	26.1	0.5	15.9	16.9	△ 1.0
8月中旬	19.0	19.7	△ 0.7	23.1	24.9	△ 1.8	16.2	15.0	1.2

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	82.5	49.1	33.4	25.8	50.5	△ 24.7
8月上旬	10.0	42.5	△ 32.5	72.0	45.7	26.3
8月中旬	31.0	43.5	△ 12.5	26.0	52.6	△ 26.6

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：不良

事由：7月下旬の気温は平年より低かったため、成熟期は平年より1日遅い7月27日であった。7月の日照時間は平年より少なく、降水量は平年より多かったこと、さらに7月上旬から倒伏が発生したことから、子実重は平年より低く、リットル重ならびに千粒重も平年を下回った。子実の外観は充実不足でやや褪色しており、発芽粒がわずかに見られる。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	7.27	7.26	1
子実重 (kg/10a)	553	607	△ 54
同上平年比 (%)	91	100	△ 9
リットル重 (g)	779	810	△ 31
千粒重 (g)	37.3	37.9	△ 0.6

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：平年並

事由：7月中下旬の気温が低く推移したことから生育は遅れ、成熟期は平年より3日遅れた。開花期間にあたる6月下旬から7月上旬が高温多湿であったため赤かび病の発生が目立った。穂数は多かったが(前報)、開花期以降の日照不足と倒伏により子実の充実不良が懸念される。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.11	8.8	3	8.10	8.7	3

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況：平年並

事 由：7月中下旬は平年より低温で推移したことから、開花期と抽糸期はともに平年より3日遅れた。その後は8月上旬が好天に恵まれたため、草丈は平年を上回ったが、葉数は平年よりやや少なかった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	8.8	8.5	3
抽糸期 (月.日)	8.7	8.4	3
草丈 (cm) (8月20日)	315.8	295.1	20.7
葉数 (枚) (8月20日)	14.1	14.9	△0.8

注) 平年値は前5か年の平均 (供試品種を変更したため)。

4) 大 豆

作 況：やや不良

事 由：7月中～下旬の平均気温が極めて低かったため、開花始は平年より4日遅かった。主茎長は、「トヨコマチ」は平年並、「ユキホマレ」は平年よりやや下回っている。主茎節数、分枝数は平年よりやや少ない。着莢数は、「トヨコマチ」は平年を下回り、「ユキホマレ」も平年より少ない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.24	7.20	4	7.24	7.20	4
主茎長 (cm) (8月20日)	63.8	63.2	0.6	57.8	62.6	△4.8
主茎節数 (8月20日)	10.7	11.4	△0.7	10.6	11.3	△0.7
分枝数 (本/株) (8月20日)	5.0	5.8	△0.8	4.4	5.3	△0.9
着莢数 (莢/株) (8月20日)	59.4	66.1	△6.7	61.5	63.8	△2.3

注1) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆

作況：やや不良

事由：7月中～下旬の平均気温が極めて低かったため、開花始は平年より4～5日遅かった。「サホロシヨウズ」では着莢への影響がみられ、着莢数は平年よりかなり少ない。一方、「エリモシヨウズ」ではその影響は小さく、着莢数はほぼ平年並である。主莖長は「サホロシヨウズ」はほぼ平年並であるが、「エリモシヨウズ」は著しく短い。主莖節数、分枝数は、両品種とも平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.29	7.24	5	7.30	7.26	4
主莖長(cm) (8月20日)	54.4	56.3	△1.9	50.8	61.8	△11.0
主莖節数 (8月20日)	10.2	11.9	△1.7	10.9	13.3	△2.4
分枝数(本/株) (8月20日)	3.9	5.2	△1.3	2.5	4.9	△2.4
着莢数(莢/株) (8月20日)	28.5	51.1	△22.6	33.6	35.6	△2.0

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆

作況：やや不良

事由：草丈は平年を上回り、主莖節数、分枝数はほぼ平年並である。しかし、7月中下旬の平均気温が極めて低く多湿に推移したため、着莢数は平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	45.8	39.2	6.6	50.0	41.4	8.6
主莖節数 (8月20日)	5.2	5.4	△0.2	5.2	5.8	△0.6
分枝数(本/株) (8月20日)	5.0	4.6	0.4	4.7	4.2	0.5
着莢数(莢/株) (8月20日)	17.9	23.2	△5.3	17.7	21.0	△3.3

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：7月中の断続的な多雨と日照不足により、例年に比べ疫病の発生が多く認められる。また、土壌は湿潤な状態で推移したため、地上部はやや徒長している。上いも重は、「男爵薯」では塊茎の肥大が順調に進んだため平年を上回ったが、「コナフブキ」ではやや下回った。でん粉価は「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm) (8月20日)	46	42	4	86	74	12
茎数(本/株) (8月20日)	3.9	3.1	0.8	3.1	3.0	0.1
上いも重(kg/10a) (8月20日)	4614	4005	609	3238	3441	△ 203
でん粉価(%) (8月20日)	14.0	15.8	△ 1.8	19.9	20.6	△ 0.7

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：7月下旬にまとまった降雨があったことから、移植栽培では地下部の肥大は順調に進み、根重は平年を上回っている。地上部の生育は、7月下旬が低温であったため、生葉数は概ね平年並であるが、草丈、茎葉重は平年を下回っている。直播栽培では、地上部および地下部の生育は平年を大きく下回っている。

以上のことから目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	59.4	64.4	△5.0	55.4	60.7	△5.3	56.8	64.3	△7.5
生葉数(枚) (8月20日)	28.1	27.1	1.0	28.5	27.3	1.2	25.0	26.8	△1.8
茎葉重(g/個体) (8月20日)	883	946	△63	929	1004	△75	762	927	△165
根重(g/個体) (8月20日)	665	633	32	791	701	90	425	477	△52
根周(cm) (8月20日)	30.0	29.2	0.8	32.8	31.7	1.1	25.6	26.6	△1.0

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況：不良

事由：2番草は平年より2日早い8月7日に収穫を行った。2番草は、生育期間の後半にあたる7月中・下旬に低温寡照で推移したことにより、草丈と節間伸長程度は平年を下回り、乾物収量は平年比53%と少なかった。また、1番草との合計乾物収量も平年比75%と少なかった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	2番草	8.7	8.9	△ 2
節間伸長程度	2番草	2.8	3.3	△ 0.5
病害罹病程度	2番草	3.5	3.6	△ 0.1
草丈(cm)	2番草	55	62	△ 7
生草収量(kg/10a)	2番草	476	1020	△ 544
乾物率(%)	2番草	25.3	22.5	2.8
乾物収量(kg/10a)	2番草	120	225	△ 105
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	653	875	△ 222

注1) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、平成19年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作況：平年並

事由：球肥大期は早生品種「改良オホーツク1号」では平年並であったが、晩生品種「スーパー北もみじ」では平年より2日遅れた。倒伏期は、「改良オホーツク1号」では平年より2日遅い8月6日、「スーパー北もみじ」では平年より3日遅い8月16日であった。「改良オホーツク1号」は8月19日に根切りを実施した。7月下旬の低温、多雨により、試験ほ場全体に白斑葉枯病、小菌核病並びにべと病が発生していた。早生の「改良オホーツク1号」では、病害多発の前に球肥大がほぼ完了していたため一球重への影響は無く球の肥大は順調であった。晩生の「スーパー北もみじ」の一球重は平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期(月.日)	7.7	7.7	0	7.23	7.21	2
倒伏期(月.日)	8.5	8.3	2	8.16	8.13	3
一球重(g)(8月20日)	272.9	246.5	26.4	240.2	253.6	△ 13.4

注) 平年値は平成15年から平成19年までの5か年の平均(平成20年は暴風雨被害により成績を参考扱いとして除く)。